

解説

この度は【208号室の原罪】をプレイいただきありがとうございます。
この物語の解説は以下の通りです。

○それぞれの正体

トーマス…1960年からタイムトリップしてきた男レム・グレイ

テオ…トーマスことレム・グレイの息子

トランク内の白骨死体…トーマスの妻・テオの母 = エレナ・アシュフォード

犯人…トランク内の白骨死体を殺害した犯人はエイデン・クロウリー(カード>ダッシュボードの手前の身分証のイラストに記述)

○真相について

1959年、アメリカ軍は極秘裏にタイムトリップ実験を計画し、その実施日は1960年2月12日に定められていた。本来は赤いシボレーを改造した専用車両を用いるはずだったが、実験直前、その車両が何者かに盗まれるという前代未聞の事態が発生する。

計画は“一度タイミングを逃せば再試行は不可能”という性質を持っており、軍は追い詰められていた。苦渋の末、彼らが選んだ代替手段は、決して本来の条件を満たさない民間航空機の利用だった。こうしてトーマス(レム・グレイ)を乗せた便は、万全ではない状態で実験に投入されることとなる。

さらに混乱の最中、レム自身は『妻エレナがすでに殺害されている』という衝撃の事実を知ってしまう。同時に、タイムトリップによって未来へ移動した際、一般乗客たちが白骨化してしまうという避け難い結果までも理解していた。しかし、もはやそれを回避する時間は残されておらず、エレナを助ける可能性に賭けて乗り込むしか選択肢はなかった。

赤いシボレーを盗んだのは、レムと同じ計画に関わっていたエイデン・クロウリーである。彼はタイムトリップ任務に自ら志願していたが、選ばれたのはレムだった。軍内でも栄誉とされる任務を奪われた嫉妬と劣等感により、エイデンは次第にレムへの憎悪を膨らませていく。訓練中のレムは隔離されており直接手を下せなかつたため、彼は憎悪の矛先をレムの最も大切な存在——妻エレナへ向けた。

くそっ、俺がタイムトリップの任務に就くはずだったのに……！！何であんな奴が……！あいつの妻を殺して絶望を味あわせてやる

妻エレナは出産後、自宅に帰った直後にエイデンにより、ナイフで殺害された。彼女は行方不明扱いとなる。

(生まれた子供は「テオ」と名付けられたが、母エレナは失踪、父レム・グレイも事故で死亡扱いとなり、テオは施設へ預けられ、母方姓のテオ・アシュフォードとして育つ。)

エイデンは計画通り、証拠隠滅のために、元々用意していた改造車のトランクにエレナの遺体を押し込んでタイムトリップを行った。彼の目論見は単純だった——未来へ行き、そこで死体を処分して戻れば、現代では証拠が消えて完全犯罪になると考えたのだ。

未来に行くことによって、自分が全能の神になったかのような高揚感を得ることが出来る。そんな事を出来る人間がかつて軍にいただろうか？……俺だけが成し遂げた偉業だ。

タイムトリップに成功し、エイデンは1989年に降り立った。しかし安心からか、あるいは緊張の糸が切れたのか、彼は用を足すため車から少し離れた。その同時刻、レム・グレイが乗せた民間航空機が到着する。朦朧としたレムは自分が誰なのか分からないまま車を使い、モーテル「REMEMBER」へたどり着いた。

(◆ここがこのゲームの開始時点、1989年10月12日AM2:10)

用を足している最中に車が勝手に走り出したのを見て、エイデンは慌てる。車の痕跡を辿ると、車は近くのモーテルの駐車場に停まっていた。だがレムがキーを持ち去っていたため車に鍵は無い。

エイデンはトランクをこじ開けるため、落ちていた木の棒を何度もぶつけてトランクの鍵を破ろうとしたが開かない。埒が明かないと判断したエイデンは、思いきり棒を振り下ろした。大きな音が響いた直後、誰かの足音が近づいてくるのに気づき、彼は咄嗟にモーテルの影へ身を潜めた。

(◆物語上ではAM2:30:読み合わせBの時点)

やがて駐車場に近づいてきたキャラクター達がトランクの中の死体に気づく。追い詰められたエイデンは倉庫にあったガソリンを撒き、建物を爆発させて、混乱に乗じて二人を始末しようとしたのだった。

(◆物語上ではAM3:10:読み合わせCの時点)

○推理導線について

本作では、以下の要素を段階的に解明することで、プレイヤーはより良いエンディングに到達できます。

- 同じ顔の男の正体を探る
- トマスがタイムトリップしている事実と、その方法
- トマスが身につけている時計の秘密
- トランクにあった白骨死体の正体
- 真犯人が“第三者”であること
- 男の体の攻撃箇所とカード選択について
- 事件が起こる前の過去へ戻るための最善手

◆同じ顔の男の正体を探る

序盤では、プレイヤーは「同じ顔の男(トマスとテオ)」の正体については確定できません。ただし、この段階で後の推理にとって重要な情報が開示されます。

- 【鳥の羽の紋章が描かれたキー・ホルダー】
- 互いに同意があれば【時計】と【ペンダント】も共有可能

第二調査フェイズ以降では、トーマスが乗ってきた赤いシボレーの調査が進み、トランク内部から白骨死体が発見されることで、物語は本格的な推理段階に入ります。

◆トーマスがタイムトリップしている事実と、その方法

タイムトリップを示唆するヒントは以下の通りです。

- 車が“過去から来た”可能性
 - トーマスが乗ってきた車は**1960**年製のシボレーであるにもかかわらず、**1989**年現在でも新品同様
 - 長期間の未使用状態が不自然であるため、時間移動による出現を疑わせる
- 年齢の矛盾
 - 【気づきC】を見ればトーマス・カインが偽名であり、本名はレム・グレイだと分かる
 - トーマスの身分証には**1960**年生まれの**29**歳(トーマスハンドアウトに記載)レム・グレイの身分証(コピー)には**1931**年生まれとある
 - 同一人物であるのに、本来の年齢は58歳であり見た目と一致しない

これらの矛盾から、トーマスは“現在に存在するはずのない人物”だと判断できます。

● タイムトリップの方法について

核心となるのは【謎の文書3】です。

- 文書には「**200マイル**以上の速度で、限られた地理座標を移動することで時間移動することが可能」と記載されている
- さらに図示された時間は
October 12, 1989 3:30 → February 5, 1960 0:00

また、以下の情報で補強されます。

- タイムトリップ地点の示唆
 - トーマスが現れた場所がセントルイス・ランバート国際空港

- 【走り書きのメモ】にも「1989年10月12日 セントルイス・ランバート国際空港」と記載これらから、空港が“時間移動可能ポイント”であると結論づけられます。
-

◆トマスの時計の秘密

【重要な手がかりD】の設計図に記されている通り：

「一定時間、その個体は時間の影響を受けない」

つまり

- トマスが白骨化せず1960年の姿のまま移動できたのは 時計による時間影響の遮断効果のおかげ
- 時計が破壊・取り外されると、即座に影響を受ける

これが“犯人の腕時計を壊す”行動の意味につながります。

◆白骨死体の正体と来歴

● 身元

- テオが自分の母の骨だと気づく【気づきA】
- トマスが持つ【大事なもの】の写真の女性が着るワンピースと、白骨死体の服装が一致している

女性がテオの母であり、トマスの妻であるという事が分かります。

● 来歴と死因の推測

【重要な手がかりC】の学者の記述より：

「時間移動の際に個体に対する時間の影響は微々たるものとするが果たしてそうだろうか？」

「移動した時間分、生物が影響を受けるとしたら……恐ろしい結末が待っていることだろう」

この記述を踏まえると、

- テオの母エレナは“過去から時間移動した

- しかしエイデンに殺され、タイムトリップにより白骨化した状態で現在に到達したという推理に至ります。
-

◆第三者が犯人であること

以下の3点から、犯人はトーマスでもテオでもなく別の人物だと推測されます。

1. 【身分証】ケースに、異なる生年月日の身分証が2枚存在する。
→ 誰かが意図的に身分を偽装して時間移動している可能性。
また、赤い髪なのでトーマスでもテオでもない。
2. 第三調査フェーズ冒頭で、風に乗ってガソリンの匂いがする描写。
→ テオもトーマスも目の前で話しておりガソリンを撒く余裕がないため、
別の誰かが近くにいて行動している可能性が高い。
3. トーマスは車の所有者ではない。
→ 車周りの工作を行う動機がない。

以上から、事件の実行犯は第三者であると判断できます。

◆男の体の攻撃箇所とカード選択について

■ 腕を狙う

- 男もタイムトリップ者である可能性が高い
- 腕時計を破壊 → 時間の影響を受けて白骨化
- もっとも安全性が高い選択肢

■ 頭を狙う

- 【軍事指南書】によると、「近接戦闘では、足への攻撃は即座に相手を無力化する決定打にはなりにくい」とある
- 消去法で考えて、一撃で無力化を狙う選択肢

■ 足を狙う

- 足への攻撃は即時の無力化に繋がりにくい
- 反撃のリスクが最も高い

■ カード選択の基準

- 打撃に適した、重く・硬い 武器が最適
-

◆事件が起こる前の過去へ戻るための最善手

目的は、エレナ殺害前・実験開始前の過去へ戻ることです。

最善策は、

★ セントルイス・ランバート国際空港へ急行すること(AM3:30までに)

【謎の文章3】に書かれた指定時刻は、October 12, 1989 3:30となっていますが、選ぶ時点ではすでに AM3:25。

- 空港まで 約5分(トーマスのハンドアウト)
- 消防署へ行く・駐車場に留まる → 間に合わない
- 時刻がズレると、戻る先が変わり、エレナの死後に到達してしまう可能性がある

(作中で明記はされていませんが、文書の指定時刻と異なるタイミングで実行すれば、想定外の結果が起こり得ることが示唆されています。)

そのため、空港へ向かう以外の選択肢はエレナが死亡してしまうという構造になっています。また、その他の選択肢については読んでいただければと思いますが、概要は以下の通りです。

消防署：火災を消し止め、モーテルの女主人マーサを助ける事ができる

駐車場：助けを求められず、マーサが死亡する

○小ネタ

- 「208号室の原罪」というタイトルの意味について

レムはタイムトリップ実験が乗客を白骨化させる未来を知りながら、すでに殺されている妻エレナを救うために実験を強行し、208号室へたどり着きました。その選択こそが、レム自身、そして彼の所属する軍が背負う「原罪」でした。

•看板の意味について

「あらすじ」で光っていたネオンサインは、REMEMBERから「REM」が消えていた、つまりキャラクターである「レム」を「思い出す」という言葉あそびでした。

また、残った「EMBER(残り火)」はすでに燃え尽きた火の最後の名残。

→ 父の人生、原罪、忘れられた名前……など様々な意味が込められています。

最後に「REMEMBER(思い出すこと)」ができるかどうかは、プレイヤーの選択次第という意味を込めました。

•トーマスが車のラジオで聞いた「REMEMBER……」は？(ハンドアウトより)

シナリオ的には、モーテルに寄った必然性を付ける為の仕掛け。しかし、トーマスにとって REMEMBER(思い出せ) は、記憶を失っている自分への呼びかけ。つまり、時間を超えて過去の自分が何かを伝えようとしたのかも？